「3歳児にとっての安心感」

こどもたちが自分から遊びに関わっていくために、「安心感」は大切な要素の一つです。
Ａさんは、入園当初は遊びの時には５歳児クラスに出かけ、他学級の友達と一緒に過ごすことが多く、夢中になれることを見つけている様子がありました。「ショーごっこ」をきっかけに、自分から遊びに関わるようになったＡさんの姿から、Ａさんにとって「安心感」とはどのようなものだったのかを考えていきたいと思います。

６月
着替えを終えた友達がＣＤをかけて、踊り始める。教師が巧技台でステージを作る様子を見ていたＡさんもステージに立ち、マイクを持つ真似して歌ったり、踊ったりする。教師がＡさんに楽器を手渡すと、それをマイクに見立てて歌い始める。しばらくすると、Ａさんは「今日は来てくれてありがとう。これからショーが始まるから楽しんでいってね」と以前見た５歳児の遊びを真似して、アナウンスをしたり、お客（教師）に手を振ったりする。

私もここ（ステージ）で
遊んでみたいな…

〇新しい場への興味

次はこんなふうにしたい！

〇５歳児への憧れ
〇自分のイメージを受け止めてくれる他者の存在（教師）がいる安心感

７月
教師はＡさんと一緒に、お面バンドに折り紙を貼り付けて飾りを作る。Ａさんは出来上がると「ここにも付けたんだよ」とお面バンドの内側にも飾り付けをしたことを嬉しそうに教師に見せ、頭に着けてステージで歌ったり、踊ったりする。Ａさんは、ショーの遊びがひと段落した後も、作った飾りを頭に着けて一日過ごす。

こんなに素敵な物ができた！

〇自分が作った物を使う嬉しさ
〇自分で作った嬉しさ
〇ずっと身に着けている安心感
〇次の遊びへの期待感

７月
終業式前日、Ａさんは５歳児クラスが大掃除をしていて一緒に遊べないことを知る。残念そうな様子だったが、自分の引き出しからマイクと飾りを持つとステージで歌と踊りを始める。その様子を見て、教師はお客として遊びに加わることにする。Ａさんは「私はももちゃんなの」「やっぱり歯磨きちゃん」「今はまなかちゃんなの」と自分の名前が変わるたびにお客に知らせ来て、歌うことを繰り返す。

これ（マイク、お面バンド）を
持てば、私はいつでもアイドル

〇作った物がある安心感
〇遊びの世界に入るきっかけ
〇そのものとして生きる

Ａさんは遊びの中で、「歌うこと」「踊ること」をきっかけに夢中になれることを見つけ、自分から遊びに関わっていくようになりました。遊び始めに、「ステージ」のようなすぐに遊び出せるような場があったこと、教師が自分のイメージを受け止めてくれたことが、Ａさんの「こんなふうにしたい」という気持ちへとつながっていきました。
また、遊びに使う物（マイクや飾り）を自分で作るとそれを大切に使い続けていました。「こんな素敵なものが自分で作れた」というＡさんの嬉しさが、作った物を身に着ける安心感へと繋がり、自分から遊びに関わっていくことができるようになったのだと思います。そして、繰り返しそれらを使う中で、作った物が遊びのイメージの世界に入り込むきっかけとなり、アイドルそのものとして生きるＡさんの姿になっていったのだと思います。遊びの中でＡさんのイメージを受け止めてくれる他者の存在や自分の居場所となる物ができたことがＡさんの「安心感」となり、夢中になって遊ぶ姿になったのではないかと考えます。

（石関　萌）